

明日へつなぐ生活科

生活科を
はじまりから
のぞいてみよう！



生活科の歩みをたどる座談会

- 生活科探究ロード
- 新教科「生活科」の誕生
- 生活科の本質とは？
- 遊びの価値とは？
- 生活科の新しい学び
- 明日へつなぐ生活科

生活科の歩みをたどる座談会

生活科が誕生してから、35年以上がたちました。

幾度ももの変革をへて進化を遂げてきた生活科。その黎明期から現場で活躍されてきた先生がたと、生活科の変遷をたどりながら、改めて「生活科」の本質を探ってみませんか。

大宮健一先生

札幌市立幌南小学校校長

教員4年め(平成6年)に生活科と出会う。「自立の基礎」となる「はらはらドキドキ」を追求して学びをつくってきた。

磯島年成先生

北翔大学教育学科教授

平成元年、生活科創立から関わる。低学年社会科や理科の時間を「自分との関わり」で捉え、生活科定着に尽力してきた。

田中美紀先生

札幌市立札幌南小学校教諭

教員1年め(平成6年)に生活科と出会う。子どものストーリーを広げ、遊びの中で学びを深めることを大切にしてきた。

加藤秀樹先生

札幌市立南月寒小学校校長

教員5年め(平成5年)に生活科と出会う。子どもの思いや願いを大切に育てる子ども観や指導観を研究、実践してきた。

森田智也先生

元札幌市立北園小学校校長

教員6年め(平成4年)に生活科研究校に赴任。子ども目線の授業観、学びの価値を多くの先生に伝え続けている。



生活科探求ロード

昭和40年代
～50年代

▼低学年の社会と理科について、教科構成の在り方が課題とされ、議論が交わされた。

昭和60年
(1985)

▼臨時教育審議会(臨教審)
第1次答申(個性重視・学歴社会是正)

昭和61年
(1986)

▼臨時教育審議会(臨教審)
第2次答申(生涯学習体系)

昭和62年
(1987)

▼教育課程審議会の答申で、小学校低学年段階の社会科と理科の廃止と、新教科としての「生活科」を設置する方向が定められる。

平成元年
(1989)

生活科スタート!

学習指導要領改訂で、「生活科」が新設される

生活科

①具体的な活動や体験を重視する。②自分とのかかわりで社会や自然をとらえる。③自分自身や自分の生活について考える。④生活上必要な習慣や技能を身に付ける。

総則

社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成。生活科の新設、道徳教育の充実。
[実施：平成4年度]

平成4年
(1992)

▼「小学校指導書生活編」発行。生活科の目標の4つの観点、学年の目標の2学年共通の3項目、内容構成の3項目が定められる。

▼児童の時間割に「生活科」が位置づけられ、検定教科書を使用しての授業が開始した。
▼中教審答申(受験戦争の緩和)

新教科「生活科」の誕生

当時の低学年社会科・理科と
異なる学び

森田 生活科が始まって35年以上がたち、長年携わっている先生がたが退職される世代交代の過渡期において、当初の志やさまざまな知見が失われ、実践だけが残っているのではないかという懸念がありました。今日は、生活科を振り返り、我々の経験を共有する場にしたいと思います。まずは印象に残っている、移行期の授業を聞かせてください。

加藤 私の初任は2年生担任だったため、低学年社会科に力を入れていました。バスの運転手をテーマに教室内にバスの車内を再現したり、パン工場見学に向けて実際にパンを作ったりして、リアルな体験を取り入れていました。これがのちの生活科の授業へとつながったと思います。

磯島 私が生活科と出会ったのは、平成元年度の移行期です。低学年の社会科と理科の内容を、生活科の趣旨を活かしてリメイクしたことが懐かしく思い出されます。**生活科は「自分との関わり」を重視する教科です。**従来の社会科では、「バスの運転手」のように職業に焦点をあてて

いましたが、「自分が乗るもの」へとより身近な体験を大切にする内容に変わっていきました。理科でも「何を水に溶かしたらおいしい飲み物が作れるかな。」など、実験の基礎を自分との関わりで作ったんです。

田中 私は平成6年に2年生を受け持ち、教員としても生活科がスタートでした。校庭のクルミを伐採した時は、生活科の学習に取り入れて、クルミの料理を作り、家族単位へつなげました。今でも、「あの授業は楽しかったね。」と話題になります。子どもの声から単位をつなぐことを大切にしています。

加藤 初めての研究授業で厳しい指摘を受けたことを覚えています。子どもたちは「遊びのコーナー」へ行くたびに、振り返りのカードをたくさん書いていたのですが、カード作成が目的になり、交流がおろそかになってしまいました。目的か方法を区別するきっかけになりました。

森田 カードなどでの振り返りは大切ですが、その目的を考えることは、現在でも大切です。

磯島 平成2年、私が北海道の先生に生活科の授業を公開した研究会が忘れられません。当時は生活科の全面実施前であり、子どもたちの周りを囲むように多くの先生が参観していました。参加している先生の中には、活動中の子どもに、これまでの活動について質問するなど、授業中に参加者の先生と子どもが会話している姿があり、新教科生活科の関心の高さを感じたものでした。この時の研究会の授業では、子どものやりたいことを活動につなげる方法を模索しながら指導しました。参会の先生からは、子どもたちが自ら活動している姿を見て「自立していますね。」と驚かれました。



「実体験を重視していたため、調理や製作をする活動を多く取り入れていました。」

平成6年
(1994)

▼「児童の権利に関する条約」の批准

平成8年
(1996)

▼中教審答申(生きる力とゆとり)

平成10年
(1998)

学習指導要領改訂

生活科

①児童が身近な人や社会、自然とかわる体験を一層重視する。②直接かわる活動や体験の中で生まれる知的な気付きを大切に指導が行われるようにする。③各学校において、地域の環境や児童の実態に応じて創意工夫を生かした教育活動や重点的・弾力的な指導が一層活発に展開できるようにする。

総則

基礎基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成。(教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設)
[実施：平成14年度]

▼生活科では、2学年まとめて示されるようになり、12項目が8項目になる。教科書も上・下巻となり、より弾力的にカリキュラム展開ができるようになる。

平成13年
(2001)

▼指導要録の改正(指導と評価の一体化)

平成14年
(2002)

▼文科省「学びのすすめ」(確かな学力)

平成15年
(2003)

▼学習指導要領の一部改正(歯止め規定緩和)

Theme 2

生活科の本質とは？

「はらはらドキドキ」の経験が
自立の基礎に



子どもと対話して進めていく
生活科の考え方は、他の教科
の授業にも活かしました。

が大切だと思います。

加藤 「自分の力でできた」という生活科の経験はその後にも活かされています。

森田 さまざまな事故などに対する手立てが難しい世の中ですね。学校の目標を段階的に計画して、一貫した学習にしたいです。

大宮 初めて生活科を担当したのは、平成6年です。特に心に残っているのは、子どもたちがグループごとに地下鉄を利用してゴール地点に集まる「雪まつり探検」です。感想には「ドキドキしました。」という言葉がよく出てきます。この「ドキドキ」の感情が、大切だと感じます。

森田 現在では難しいけれど、昔は大胆に挑戦できたことってありますよね。中には教科の意図から外れているものもあったかもしれませんが、大胆な活動の中に生活科の本質があったような気がします。

磯島 子どもの感想を聞くと生活科のよさがわかります。私がもらった感想には、「電車に乗る時、はらはらドキドキしました。お金を払うのが心配だからです。……思い切ってお金を入れて外に出ました。私は気持ちが悪かったです。」とあります。「はらはらドキドキ」の経験が、自立の基礎を養う生活科の本質だと実感しました。

大宮 「危ない。」「誰が責任を取るの。」という周りの意見には迷いまし

たね。だから2年間を見通して学習を組み、1年生の学校探検、公園探検、2年生の「雪まつり探検」につなげました。通過する駅をみんなで覚えて、自分で切符を買って乗車して。子どもの力でさまざまな人と関わられるようにしました。安全に守られすぎるより、少し冒険できたほうが、「はらはらドキドキ」できると思います。保護者にも協力してもらい、成長の過程を見せて、子どもだけでも大丈夫だと思ってもらうこと

Theme 3

遊びの価値とは？

逆風時代

—遊んでいるだけでよいのか生活科—

森田 授業を作る中で、困ったことはありましたか。私は、子どもとのストーリーを大切にしたいと思いながらも、よりよく導きたい気持ちもあり、子どもの反応が思いどおりではないことにもがいていましたね。

加藤 自分の子どもの参観日に公園で遊ぶ生活科の授業を見た妻から

「遊んでいるだけに見える。これが授業なの？」と言われ、はっとしました。生活科の学習のねらいについて、保護者への説明不足であったからだと思います。現在は多くの保護者が生活科の学習経験者ですが、当時は生活科を知らない保護者への説明に学校差があったと思います。

生活科探求ロード

平成16年 (2004)	平成17年 (2005)	平成18年 (2006)	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	-----------------

▼PISAショック(学力重視)

▼中教審答申(地方分権)

▼戦後初めての教育基本法改正

▼全国学力・学習状況調査再開



学習指導要領改訂

①気付きの明確化と気付きの質を高める学習活動の充実。②活動や体験したことを言葉や絵で表す表現活動を一層重視する。③中学年以降の理科の学習との連続性を視野に入れる。④安全な登下校の重要性、自然の素晴らしさや生命の尊さを実感する指導を充実する。⑤総合的・関連的な指導の一層の充実を図る。

総則

「生きる力」の育成、基礎的・基本的な知識・技能の習得。思考力・判断力・表現力等の育成のバランス(授業時数の増、指導内容の充実、小学校外国語活動の導入)

[実施：平成23年度]

▼中教審答申(活用重視・授業時数増)

磯島 最初は保護者も生活科がわからなかったんです。移行期には保護者にも生活科について一緒に考えてもらいました。また保護者には、生活科でこう育つのだと、お便りや懇談会で子どもの言葉や写真を共有していました。活動でも、保護者と活動を準備して、成果を伝えていました。

田中 野菜栽培でも、鉢や野菜選びから協力してもらいました。

森田 生活科の授業は、「活動あって学びなし」と今も昔も言われます。「遊んでいるだけでいいのか生活科」について、どう思いますか。

大宮 遊びを通して自分もやりたかったり、他者と関わる中でどんな反応があるかを考えたり、遊びの中にはさまざまな学びがありますが、ただ遊んでいるだけのように見える人もいるかもしれません。だからこそ教師がどんな学びがあるかを見取り、わかりやすく説明したいですね。

森田 説明責任がありますよね。

大宮 現在では活動を通して、子どもが何を考えているか、自分から関わってうまくいかないときにどう調整するかを見取り、粘り強く学ぶ姿を伝える必要があります。

磯島 教師がどのような姿勢で遊び

を考え、どのように関わるかで、生活科の学びは大きく変わると思えます。遊びの中の学びを教師が理解できれば、遊びの価値を感じることができます。目的をもつ子どもには、達成できるまで教師が関わったり、一緒に遊んで関わってみたりできるでしょう。遊びの価値観を理解できれば、教師の関わり方も変わります。生活の中で日常的に子どもと関われるのは、学級担任の強みです。**子どもと先生が、授業を一緒に作る感覚が大切であると思います。**

森田 ただ遊ばせるだけではなく、『遊びの価値をかみしめる』ことが必要ですね。子どもから出てきた言葉を見取り、学びにつなげたいです。

田中 今の生活科では、教師はあまり遊ばせたり、子どもと遊んだりしていないと思います。例えば、教室の入り口に「研究所」のカードリーダーを作るだけで、子どものストーリーが始まり、活動を進めます。このようなエピソードを、教師がどれだけ拾えるかが大切だと思います。

森田 最近の振り返りでも、事実の羅列が多く、子どもたちの心の言葉が書かれていない気がしますね。

加藤 生活科が始まった頃、「活動あって学びなし」「支援あって指導な

し」と言われていました。子どもの主体性を育むという生活科の特性ゆえに、行き過ぎた支援観への危惧がありました。思いや願いを大切にすぎるあまり、子ども任せにしすぎる「学習支援案」が作られ、思考の流れではなく支援を中心に書く研究が一時流行していました。しかし、総合的な学習の時間で整理・分析が課題として取り上げられると、生活科でも活動や体験を通した気付きについて考え表現する場を意図的に指導するなど、教師側の意識が変わってきました。それにより、支援と指導のバランスがよくなったように感じます。

森田 指導を恐れるな！ですね。



子どもの声をよく聞いて、ドキドキできる体験をたくさんさせました。

平成23年
(2011)

▼東日本大震災

平成25年
(2013)

▼教育再生実行会議
(いじめ対策、教育委員会改革、大学改革)
第2期「教育振興基本計画」
(社会を生き抜く力)

平成27年
(2015)

▼学習指導要領の一部改正
(道徳が「特別の教科」化) 実施：平成30年度
SDGsの国連採択
中教審答申(チームとしての学校)

平成29年
(2017)

学習指導要領改訂

生活科 ①体験的な学習を通して育成する資質・能力の具体化。②「身近な生活に関する見方・考え方」を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力の育成を明確化。③内容構成を3つに整理。④多様な学習活動や動物飼育・植物栽培の重視、スタートカリキュラムの促進。

総則 「生きる力」の育成を目指し資質・能力を三つの柱で整理する。社会に開かれた教育課程の実現を目指す。(「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善、カリキュラム・マネジメントの推進、小学校外国語科の新設など)
特に第1学年入学当初における生活科を中心とした総合的な指導については、新入生が、幼児教育から小学校教育へと円滑に移行することに資するものであり、幼児教育との連携の観点から工夫することが望まれる。

*スタートカリキュラムが総則に規定される

[実施：令和2年度]

Theme 4

生活科の新しい学び

何のためにそれをするのか、
理由の言える活動を

森田 生活科は昔と今では大きく変わってきていて、そのうちのひとつがICTだと思います。みなさんはどのように使っていますか。私は校区探検の際に、保護者に写真を撮ってもらって、あとで紹介するような使い方をしていました。

田中 コロナ禍の時に地図を使って自分の家から学校までの行き方を調べる活用をしたことがあります。

加藤 最新のICTはすごいことができるなという実感はあります。生活科のチームティーチングをした時、実物投影機を使ってミニトマトの葉やカードをテレビで共有すると、子どもたちの反応がわかりやすかったため、よく使いました。子どもたちの伝え合う質が変わったように感じます。

磯島 私もビデオカメラを使って、大きい画面に写真を映しながら、保護者に子どもたちの様子を共有していました。ただ、ICTを使うことが目的になってはいけません。

例えば、生活科は活動と思考を通して、表現活動をすることが大切であ

り、振り返りが不可欠です。現代の子どもたちは、ICTの普及により、振り返りの仕方が大きく変わったと感じます。振り返りをして共有することが以前よりも容易になりました。逆に、写真を撮って見たり感じたりしたつもりになるなど、**実際に諸感覚を使って感じることを曲げてはいけません。** なんのためにICTを使うのか、教師が気をつけてあげる必要があります。

森田 学んだ気持ちになってしまうような使い方ではなく、子どもの思いや願いを汲むような使い方をしたいですね。

大宮 ミニトマトの葉を撮影して拡大すれば、虫眼鏡のように細かい部分がよく見えることはよいことです



何を伝えるためにICTを使うのかをよく考えたいですね。

が、ザラザラした手触りや、触った時の匂いはICTでは体験できません。だからこそ、ICTでできるとできないことを教師が考えることが大切であると思います。

田中 どうしてその写真を撮影しておこうと思ったの、という問いかけが大切ですね。

加藤 デジタルもアナログも、どちらかが大切なのではなく、どちらも大切です。アナログ的な学習とは違うデジタルのよさも活かしながら使い分けていく、ハイブリッドな学びが大切だと思います。

Theme 5

明日へつなぐ生活科

生活科は日常を
変える力のある教科

森田 さて、現代まで話をすすめてきましたが、生活科を長年研究して

きた先生がたにとって、生活科はどのようなものだと振り返りますか。

生活科探求ロード

平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
▼学校教育法の一部改正(学習者用デジタル教科書を代替として使用可能)(平成31年度から) ▼第3期「教育振興基本計画」(教育立国の実現)	▼GIGAスクール構想の提唱(感染症拡大を受け実施が早まり、令和3年度には一人一台端末がほぼ完了)	▼全国一斉臨時休校(新型コロナウイルス感染症により) ▼外国語活動の必修化・教科化	▼中教審答申(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実) ▼幼児教育スタートプラン(幼保小架け橋プログラム)	▼小学校高学年の教科担任制の段階的導入 ▼中教審答申(新たな教師の学びの姿の実現、質の高い教職員集団の形成)	▼こども基本法の施行、こども家庭庁発足 ▼生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン策定 ▼第4期「教育振興基本計画」(持続可能な社会の創り手、ウェルビーイングの向上)	▼デジタル教科書が外国語で先行導入(令和7年度以降、算数・数学でも導入を検討) ▼中教審答申(質の高い教師の確保のための環境整備)

大宮 生活科の「はらはらドキドキ」は、大がかりな探検の中だけでなく、日常の中にもあるものだと思います。探検に備えて駅名を覚え、みんなで発表会をするのも、次の探検活動につながっている実感を得るとともに、「はらはらドキドキ」な活動でした。教師も子どもたちも楽しく取り組めることが生活科の醍醐味であると思いますし、さまざまな場面に活かすことができることだと思います。

田中 私は、子どもたちのストーリーを大切にしていたので、常に子どもたちの様子を見て、さまざまなドキドキする体験をさせるようにしていました。私が若い頃は、自由に後押ししてもらえる環境であつたし、楽しい生活科ができていたなと思います。若い教師にも、もっと大胆にさまざまな活動をしてよいと伝えられればよかったという思いもあります。

加藤 生活科の考え方は、他の教科や特別活動にも影響があるものです。また、この考え方が、自分の授業観や評価観を広げてくれたと感じています。生活科は子どもにとっての学ぶ価値はもちろん、**教師にとっても子ども観や授業観、評価観を変える重要な教科**だと思います。私の生活科の実践経験は4年間だけなのですが、総合的な学習の時間などで

も、生活科の考え方を活かしてきましたし、生活科の研修講座などでもこの考えを伝えてきました。生活科のよさを伝えられる自分になれたことが、自分の教師人生に大きな影響を与えたと思います。

磯島 生活科との出会いは、自分にとって大きなできごとでした。未知の教科を、理論と実践を繰り返して自分のものにしていく中で、一番の原動力は子どもたちの声でした。子どもたちの声を通して新しいことを実践し、理論にあたって、また子どもたちの声を聞いて実践をする、という学び方ができたという自信が私の学び方の基礎となっています。思いや願いを大切に、活動後の表現活動をするという生活科の授業観や教師観はそれまでの教科にはなかったもので、教師はさまざまなアイデアで子どもと関わり続けてほしいです。また、生活科は授業時間外にも学びがつながっている教科だと思います。休み時間や放課後に活動をしたり、土日を使って調べ物をしたりして、次の時間には更に思いや願いが膨らんでいく学習ができます。このように**授業と授業の間に起こるできごとが大切な教科**であり、それが強みであると思うため、それを一般化して広めていきたいです。

森田 「自立の基礎を育てる」ことができるのが生活科だと言われている

すよね。最近の子どもたちは自立の力が弱くなっているのではないかと心配しています。だからこそ、生活科の大切さを再認識するチャンスではないかと思っています。現代の子どもたちには何が必要なのか、子ども目線で一緒に考えてあげながら進めていける教科が生活科であり、今後はより大切になっていく世の中になると、今日の座談会を通して改めて感じました。

大宮 生活科で遊びから学ぶことは本当に大切だと思っています。小さい頃にたくさん遊んできて遊ぶ力を持っている人は、大人になってもたくさんまいし、社会で活躍できるのではないかと思いますね(笑)。



子どもの声を原動力として、たくさん関わることを大切にしました。

黎明期の生活科については、教育情報誌「学びの力 e-na!! vol.7」にも記事があります。



子どもだけでなく、教師自身が必要ですね
『遊びの価値をかみしめる』





この冊子は教育出版のウェブサイトから、ダウンロードして印刷ができます

生活科のページにも、授業のヒントはたくさん！

困ったときに、ぜひ見てみてください！



明日へつなぐ生活科

2024年11月1日 発行

編集：教育出版株式会社生活科編集部

印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

発行所：教育出版株式会社

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館

電話：03-5579-6278 (代表)

URL：<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0001 札幌市中央区北1条西7-1 プレスト1・7 2F TEL：011-231-3445 FAX：011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F TEL：0138-51-0886 FAX：0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL：022-227-0391 FAX：022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL：052-262-0821 FAX：052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL：06-6261-9221 FAX：06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL：082-249-6033 FAX：082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL：089-943-7193 FAX：089-943-7134
九州支社	〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町2-1 博多蔵本太田ビル 4F TEL：092-282-1150 FAX：092-282-1160
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F TEL：098-859-1411 FAX：098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則り、配付を許可されているものです。